

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成28年9月15日(2016.9.15)

【公表番号】特表2015-529211(P2015-529211A)

【公表日】平成27年10月5日(2015.10.5)

【年通号数】公開・登録公報2015-062

【出願番号】特願2015-530374(P2015-530374)

【国際特許分類】

C 07 K 14/245 (2006.01)

G 01 N 33/53 (2006.01)

【F I】

C 07 K 14/245

G 01 N 33/53 D

【手続補正書】

【提出日】平成28年7月27日(2016.7.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

1個の多量体化ドメインと、S1yD又はS1pAの少なくとも1分子とを含む数分子のフォールディングヘルパーポリペプチドを含有する融合ポリペプチドであって、更なる標的ポリペプチド抗原配列が前記融合ポリペプチドの配列の一部に含まれない、前記融合ポリペプチド。

【請求項2】

前記多量体化ドメインがSkpである、請求項1に記載の融合ポリペプチド。

【請求項3】

1分子のSkpが、2個の隣接するS1yD又はS1pA分子と融合している、請求項1又は2に記載の融合ポリペプチド。

【請求項4】

配列番号1(Skp-タンデム-S1yD)を含む融合ポリペプチド。

【請求項5】

配列番号9(Skp-タンデム-S1pA)を含む融合ポリペプチド。

【請求項6】

干渉を低減し、又は偽陽性の結果を最小にするための、イムノアッセイにおける、請求項1～5のいずれか1項に記載の融合ポリペプチドの使用。

【請求項7】

アッセイ試薬のタンパク性成分の溶解度を上昇させるための、請求項1～5のいずれか1項に記載の融合ポリペプチドの使用。

【請求項8】

請求項1～5のいずれか1項に記載の融合ポリペプチドを含む、イムノアッセイにより分離試料中の検体を検出するための試薬キット。

【請求項9】

干渉を低減し、又は偽陽性の結果を最小にするための試薬として、請求項1～5のいずれか1項に記載の融合ポリペプチドを使用する、分離試料中の検体を検出する方法。

【請求項10】

下記工程を含む、分離試料中の検体を検出する方法；

a ) 体液試料を、前記試料中に存在する前記検体と特異的に結合し得る、特異的結合パートナーと混合することにより免疫反応混合物を生成する工程、

b ) 前記特異的結合パートナーを前記試料に加える前、同時又は後のいずれかに、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の融合ポリペプチドを前記免疫反応混合物に加える工程、

c ) 前記体液試料中に存在する検体が、前記特異的結合パートナーと免疫反応し、免疫反応生成物が形成されるのに十分な時間、前記免疫反応混合物を維持する工程、及び、

d ) 前記免疫反応生成物のいずれかの存在及び / 又は濃度を検出する工程。

【請求項 11】

分離試料中に存在する検体が抗体である、請求項 9 又は 10 に記載の方法。